

「冬水田んぼ」で 熊本の地下水保全に貢献

—地下水かん養—

サントリーホールディングス株式会社



冬水田んぼの協定締結式



津森地区の田園風景

熊本県嘉島町に工場を置く飲料メーカーのサントリーは、ビール・清涼飲料の原料となる地下水を保全する活動の一環で、益城町、益城町土地改良区に協力を依頼し、2010年から同町津森地区で地下水かん養を目的とした「冬水田んぼ」の取組を行っている。

嘉島町を含む熊本市周辺地域は、水道水源を100%地下水でまかされており、この地下水かん養には上流域の水田農業が大きく関わっている。

2016年4月の熊本地震により、当地区の田んぼも地割れなどの被害を受けたが、同年10月にはくまもと地下水財団とともに「サントリー熊本地下水みらいプロジェクト」を立ち上げ、冬水田んぼ実施水田と隣接水田の復旧を支援し、翌年の水稲作の再開に貢献した。



熊本県上益城郡益城町



冬水田んぼの水張り

〔地下水かん養〕

「冬水田んぼ」は、11月から翌年3月まで水田に水を張る取組で、この間の水管理を地元農家に委託する。サントリーは、益城町土地改良区の協力の下、活動趣旨を地権者へ説明し、地道に取組の拡大を図っている。同町において2010年に3haからスタートした冬水田んぼの取組面積は、2014年からはくまもと地下水財団の取組面積(5ha)を合わせ16haまで拡大した。

〔地域社会の振興〕

同社では熊本地震後に立ち上げた「サントリー熊本地下水みらいプロジェクト」を通じ、被災した冬水田んぼ(農地)の復旧支援や、熊本大学が行う地下水流動メカニズム調査・研究の支援に加え、田植え・稲刈りを社員と地元農家と一緒に交流活動を行っている。



被災した農地



復旧工事の様子



サントリー社員と地元農家が田植え・稲刈りで交流

